

旧油川町と青森市との
合併80周年を記念して
作られた「柿渋しおり」



「ティネイ」に しおり作り

青森一高養生 日ごろの感謝込めて

油川合併
80年記念 柿渋使用 住民へ配布

青森

旧油川町が青森市と合併して80周年を迎えたことを記念し、同市油川地区にある青森第一高等養護学校(小松崎明校長)の生徒たちが、柿渋を塗り重ねたオリジナルのしおりを製作した。昨年11月に行われた記念祝賀会で配布し、住民らの話題に。関係者は「地域と交流を深めるきっかけになれば」と話している。

(成田亮)

青森第一高等養護学校で「独自のブランド「ティネイ」は、職業教育の一環として」を立ち上げ、生徒たちが織



職業教育の一環として、「柿渋しおり」などを製作する青森第一高等養護学校の生徒ら

物、木工、柿渋和紙の各製品を手作りしている。

しおりは、学校行事や災害訓練などで日ごろから協力関係にある油川の人たちに感謝の思いを伝えようと、昨年の夏休み明けから約2カ月かけて製作。牛乳パックを再利用して和紙をすき、柿渋を塗り重ねてしおりに仕上げるまでの工程を全て手作りで行った。

昨年11月10日に油川市民センターで行われた「合併80周年記念祝賀会」では、1セット3枚入りの「柿渋しおり」として出席者約150人に配布。おしゃれなデザインと質の高さが話題を呼び、住民の間で「ティネイ」ブランドの認知度が高まるきっかけとなった。

しおりの製作に携わった瀬川裕登さん(2年)は

「地元の人たちが喜んでくれたので良かった。きれいに作れたと思うので、いろんなところで使ってもらえたらうれしい」と笑顔。小松崎明校長は「生徒たちの達成感とともに、製品のことを知ってもらうきっかけにもなった。今後は、地域の店舗などで製品を使った販売学習のようなことができれば」と期待を込めた。

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。